

I P U M A G

地域とともに未来をデザインするマガジン Vol. 50
2011 Winter

Iwate Prefectural University
Magazine

[特集1]

いわての自動車産業を もっと元気に するには？

いわてものづくり・ソフトウェア
融合テクノロジーセンター誕生

[特集2]

キャンパス・アテンダント

IPU-研究室へようこそ!

IPU TOPICS

地域をつくる希望の星たち
アイーナで学ぼう!



ソフトウェアの力を融合させ 技術力や商品力を高めます。

「いわてものづくり自動車産業をもっと元気にする」はっ



昨年の9月30日、地域連携棟に「いわてものづくりソフトウェア融合テクノロジーセンター」(通称i-MOS)が誕生しました。ここは、ものづくり産業の生産性や付加価値の向上につながる研究を推進する新拠点。自動車関連産業を始めとした産業界から期待が寄せられています。



産・学・官連携で 国内有数のものづくり 支援拠点を目指す！

「世界市場で勝っていくためには、革新的な技術、他にはない付加価値を持つ製品をつくらなければなりません」と、岩手県科学・ものづくり振興課の佐々木淳総括課長は、岩手の課題をこう捉えます。自動車半導体関連産業を柱として、産業集積を図ってきた岩手県。しかし、今後ものづくりの基盤を担うソフト・ハード技術の高度化が急務でした。そこで岩手県と県立大学、いわて組込みシステムコンソーシアムは、国内有数のものづくり支援拠点を目指す「いわてものづくりソフトウェア融合テクノロジーセンター」を設立。

「共同研究や技術者の育成によって、地域企業の技術の高度化や競争力の強化が促進されます。産業構造を変革するような新たなイノベーションの創出を目指したい」と、澤本潤センター長は力を込めます。

「企業×大学の研究事例」 AI車の事故を防ぐ、 新たなブレーキ制御 システムを開発中。

既にi-MOSでは、自動車産業関連を中心に10以上の研究テーマが候補に挙がっています。その中の一つが、ソフトウェア情報学部の新井義和准教授らが行う「車々間通信における情報伝達の不連続性を考慮したインテリジェントブレーキ制御システム」です。

研究のきっかけは、「クリープ現象を抑制するブレーキ制御システムの特許を申請したが、もっと改良できないか」という、奥州市の(有)中央車体からの相談でした。クリープ現象は、長時間の渋滞などでは意図しないブレーキペダルの解放を誘発し、追突事故につながる恐れがありました。一方で、ブレーキ操作のみ

このように大学と企業の共同研究を推進し、生産性や付加価値の向上に結びつけていくのがi-MOSの大きな役割。今後、さらに岩手のものづくり産業を元気にする様々な研究が、ここから新たに誕生していくはず。

「いわてものづくりソフトウェア融合テクノロジーセンター」の機能

- 【産学共同研究機能】「次世代インテリジェント情報技術」を軸に、県内ものづくり産業の生産性・付加価値向上につながる共同研究を推進
- 【高度技術者養成機能】ハードウェアやものづくりのプロセスを理解し、新製品・新技術開発に貢献できるソフトウェア技術者を育成・供給
- 【試作開発支援機能】カーエレクトロニクス関連製品、高度電子部品・機器等の試作開発のための設備機器を企業に開放
- 【リエゾン機能】産と学、人材と企業のマッチングなど、様々な機能をつなぐコーディネート活動を推進



「リアルタイム運転シミュレータ装置」での実験の様子。この実験室には脳波や眼球運動の測定器なども設置。

46インチのディスプレイ27面を並べた大型高精細可視化装置を備える「3次元実験室」。

i-MOSには専任のプロジェクト研究員を配置。センター内機能の案内を始め、様々な研究をサポート。

多様な刺激条件における被験者の脳波を測定する「生理指標測定装置」。様々な分野の研究に使用可能。

組込みソフト技術者を対象に教育活動にも取り組み、今年度15講座203時間に及ぶ講習会を実施。

人間工学実験室に設置された、エア駆動のリフト。

「インテリジェントブレーキ制御システム」の共同研究に取り組む、(有)中央車体の千葉和幸会長(右)、河野准之さん(左)と新井義和准教授(中央)。



1 「リアルタイム運転シミュレータ装置」での実験の様子。この実験室には脳波や眼球運動の測定器なども設置。
2 46インチのディスプレイ27面を並べた大型高精細可視化装置を備える「3次元実験室」。
3 i-MOSには専任のプロジェクト研究員を配置。センター内機能の案内を始め、様々な研究をサポート。
4 多様な刺激条件における被験者の脳波を測定する「生理指標測定装置」。様々な分野の研究に使用可能。
5 組込みソフト技術者を対象に教育活動にも取り組み、今年度15講座203時間に及ぶ講習会を実施。
6 人間工学実験室に設置された、エア駆動のリフト。
7 「インテリジェントブレーキ制御システム」の共同研究に取り組む、(有)中央車体の千葉和幸会長(右)、河野准之さん(左)と新井義和准教授(中央)。

「岩手県からのメッセージ」

岩手県科学・ものづくり振興課 佐々木淳総括課長
岩手県では、自動車半導体・医療機器関連産業を柱に据え、県内の産業集積を図っています。今後、さらなる集積に向けポイントとなるのが、情報系を中心とした基盤技術の強化と人材育成。そういう点でi-MOS果たす役割は極めて重要で、世界に通用するハードとソフトの両面に精通した人材を育てることに大きな期待を寄せています。新しい産業を興すためには、企業を誘致するためにも、高度な研究環境を整ったことは岩手の強みです。i-MOSを中心にものづくりとソフトウェアの融合技術を展開しながら、岩手の産業を進展させていきたいと考えています。

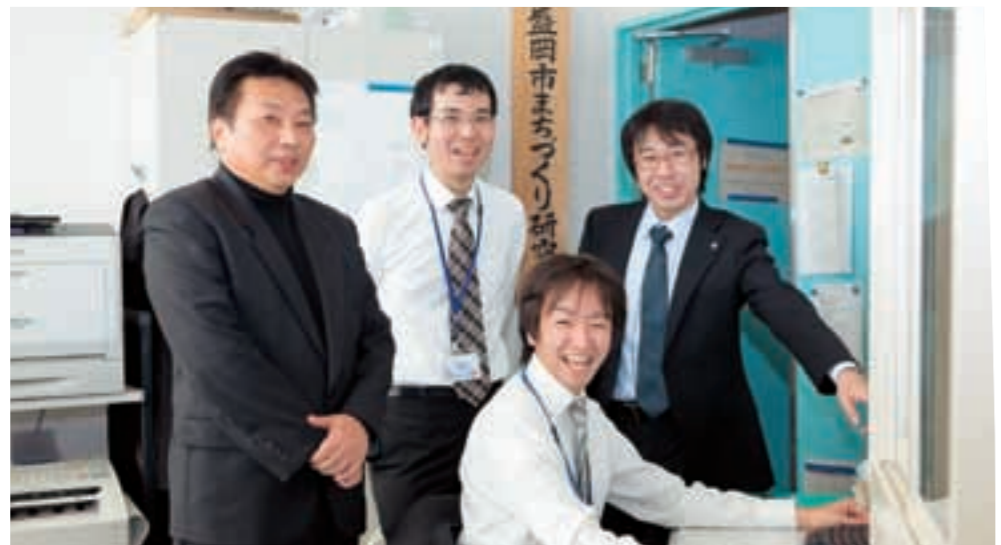


「i-MOSを拠点に、岩手の産業に新たな付加価値を生み出した」と話す、佐々木淳総括課長。



「IPU-研究室」へようこそ!

岩手県立大学は、地域のシンクタンク。学内では日々、様々な研究や教育活動が行われています。こちらでは、大学全体を大きな研究室にみたくて様々な研究教育活動をご紹介します。



◎研究所プロフィール
盛岡市と県立大学が協力協定を結び、2008年4月、県立大学地域連携研究センター(当時)内に盛岡市政の政策シンクタンク「盛岡市まちづくり研究所」を開設。所長には植田真弘宮古短期大学部長、盛岡市から上森貞行主任と渡邊智裕主任が共同研究員として常勤し、研究に励んでいる。

[研究室メンバー]
植田真弘所長(宮古短期大学部長)
佐藤俊治特別研究員(盛岡市)
上森貞行共同研究員(盛岡市)
渡邊智裕共同研究員(盛岡市)

今回の研究テーマ 盛岡市における政策分析のための定量的情報の整備と活用 [盛岡市まちづくり研究所]

盛岡市と県立大学の連携で市の課題研究に取り組む。

地方分権が進展する中、いま地方自治体には、地域の実情を踏まえて自分たちで政策を立案、実施する力が求められています。2008年より中核市となった盛岡市では、地方分権のメリットを生かしより暮らしやすいまちをつくるために、職員の政策形成能力の向上と、学術と実践を融合する研究の必要性を感じていました。そこで盛岡市は県立大学と協定を結び、市政課題や新たな政策を共同研究する「盛岡市まちづくり研究所」を開設。研究員として市職員を常駐させ、市政に関する様々な課題研究に取り組んでいます。大学側と意見交換を行ったアドバイスを受けながら研究を進め、その成果を市にフィードバック。市政の現場に生かすために、日々着実に研究を重ねています。



12月2日に県立大学で行われた「優秀賞」受賞の報告会。佐藤俊治・特別研究員より授賞式の様子が報告された。

法政大学「地域政策研究賞」で県立大学初の優秀賞を受賞!

研究所では、自治・協働の新たな仕組みづくり、アセットマネジメントによる公有資産保有の在り方、少子高齢・人口減少が及ぼす市政への影響など、様々な研究が行われています。その中で特別研究員・佐藤俊治さんがまとめた盛岡市における「政策分析のための定量的情報の整備と活用」が、第9回法政大学「地域政策研究賞」で優秀賞に輝きました。これは政策の立案に必要な市の様々な情報を数値で把握できるように整備したもの。例えば市産材を活用した住宅支援事業を例に、経済波及効果について政策分析を試みました。このような研究を、今後、市政にどう活用していくかが期待されるところで。

盛岡市まちづくり研究所で取り組んだ研究の成果は、毎年4月に「研究成果報告会」で発表される。



いわての自動車産業をもっと元気にするには?

今回のテーマに関するアイデアをtwitterで募集したところ、ユニークなものから実現性のありそうなものまで多くのツイートをいただきました。その中から「いわての自動車産業を元気にする」アイデアをいくつかご紹介します。



「リアルタイム運転シミュレータ装置」の車内の様子

車が無いと困る高齢者が多い岩手なので、高齢ドライバーでも安全に運転できる車の開発に力を入れてみるのはどうでしょう。「高齢者向けの車なら岩手!」みたいにブランド化できたら、岩手の自動車産業全体が元気になっていけそう。

@ta_mina

地場産品を利用した自動車の提案とか(漆器/鉄器/織物など)内装なんか自然に組み込めるとカッコイイですね。 @sho_taro

学生参加のコンペに際しては、Formula SAE というものがあります。(http://www.jsae.or.jp/formula/jp/) 車両開発を通じて企業と学生の対話が可能になる環境を作りたい。 @drsinn_mwj

①自動車レースの開催(競馬場のコース使って出来れば面白いけど、きっと競馬関係者には怒られる(;^_^;;) ②学生による自動車デザインコンテストとかを実施③ドラえもんコラボ(トヨタのキャンペーン) @jun2catherine

やはり復興ガールズの出番でしょう。彼女たちに、車の良さ、ドライブの楽しさを伝えてもらう企画を展開することで車が売れば工場も活性化する。ドライブコースの公募とかもあり。 @jun2catherine

エコカーはみんな同じに見えるので、カッコイイ車をデザイン。 @cucikon

岩手県版モーターショーの開催。東京モーターショー後、各地で行われるモーターショーをフォーマットに、岩手の自動車産業を一堂に集めて「知ってもらおう」機会をつくる。 @drsinn_mwj

岩手オリジナルの車種の開発、もちろん素材も全て岩手産。 @Nandarikan

Comment

岩手色を発信する試みは面白いですね。岩手だからできること、岩手らしさを追求すると何か新しい発見があるかも。個人的には、凍結路面でも滑りにくい自動車の技術開発が、もっともっと発展することを期待しています。併せて、それらをアピールしていく環境づくりに関するご意見に興味があります。

博士(工学)/新井 義和 (ソフトウェア情報学部准教授)

【特集に関するアイデア・ツイートの流れ】 twitter

特集を読んだご意見・ご感想も募集していますので、公式アカウントにツイートください。

- 1 公式アカウントで「お題」を確認
- 2 twitterにアイデアをツイート
- 3 投稿アイデアが次号誌面に掲載

※ツイートの際には、文末に「#ipumag(発行号数)」を付記してください。「発行号数」は、本号では「50」、次号では「51」と変化しますので、「#ipumag50」「#ipumag51」のように表記してください。このことにより、様々なアイデア・ご意見を内容別にグループ化でき、誌面へ反映することができます。ご協力をお願い致します。 ※皆様からのツイートは、本誌などで掲載させていただく予定です。ただし、誌面の都合により、全てを掲載することができない場合がありますのでご了承ください。

次回の「お題(テーマ)」はツイッター上で発表します。一般の皆様、学生・教職員の皆様からのツイートを広く募集しています。たくさんのアイデアお待ちしております!



この日見学を訪れたのは、三戸市の中学1年生と保護者による「観覧舎きぼう塾」の約60名。CAの案内でキャンパスツアーを体験した中学生たちは、大学に興味津々。CAと楽しく会話しながら、貴重な日を過ごした。

岩手県立大学 キャンパス・アテンダント 学生目線から大学の魅力を発信、アテンダントを通して自分力を磨く。

今年度の4月から、学生たちの参加による新しい大学広報がスタートしました。その主役は、「キャンパス・アテンダント」と呼ばれる36名の学生たち。キャンパスツアーのガイドや体験談の発表などを通して大学の魅力を発信する、学生たちの活動をご紹介します。

生の声が聞けると好評、 大学広報の顔として 36人の学生が活躍中！

「あそこに見える通路が学部と学部をつなぐ空中廊下。雨の日でも便利なんですよ」と説明するのは、キャンパスツアーのガイドを務める男子学生。学生生活のエピソードなども楽しく交えながら、大学の施設を案内して回ります。見学する中高生は、年齢の近い学生ガイドに自然に打ち解け、興味深く説明に耳を傾けます。

CAの活動のひとつ。学生たちが自分なりの目線で大学の魅力を発信する、新しい大学広報のスタイルです。4年制4学部と盛岡短期大学の学生36名で構成されるCAは、接遇マナーや大学施設の勉強ガイド研修などを経て、活動をスタート。オープンキャンパスでのツアーガイドや体験談の発表、高校訪問、受験生相談ルーム、HPの作成など、活動は多岐に渡ります。

CAにはもう一つの大切な目的があります。それは学生たちの能力の向上です。大学の魅力を発信するといっても、ただ説明すればいいというわけではありません。接する態度や表情、興味を引き付ける話し方など、様々な能力が問われます。

CAにはもう一つの大切な目的があります。それは学生たちの能力の向上です。大学の魅力を発信するといっても、ただ説明すればいいというわけではありません。接する態度や表情、興味を引き付ける話し方など、様々な能力が問われます。



力を合わせてCAの活動に取り組む学生たち。これをきっかけに交流が広がることも多いという。



CAの発表に真剣に聞き入る見学の中学生たち。学生は年齢の近い気さくなお兄さんお姉さんだ。(12月3日二戸市「観覧舎きぼう塾」)



CAの活動の時はオリジナルトレーナーを着用。学生のデザインによるロゴマークが目印。



見学会では大学生活の様子をスクリーンで紹介。司会も発表もCAの学生たちが行う。(11月17日高校教員向け大学見学会)

【キャンパス・アテンダントの活動】

- ①CAのミッション、行動指針を十分に理解した上で活動する。
- ②大学の魅力を十分に発信する能力を高める。
- ③CA同士の交流の輪を広げ、個々の学生が持っている情報を共有する。

【ミッション】岩手県立大学の魅力をお客様(高校生等)に学生目線で発信!

【行動指針】正しい情報を明るく、親切に、誠意を持って相手のために伝える

- 【活動内容】
- ◎キャンパス・ガイド(4月~12月まで40校対応)
 - ◎高校教員向け大学見学会(6月、11月開催)
→受付、体験談発表、キャンパス・ガイド
 - ◎オープン・キャンパス(7月3日開催)
→受付、キャンパス・ツアー、体験談発表
 - ◎高校訪問・大学説明(随時)
 - ◎受験生相談ルーム対応(7月、8月、11月、1月)

【キャンパス・アテンダント メッセージ】

佐々木 美南子さん(総合政策学部3年)
人前で上手に話せるようになりたいと思って応募しました。CAの活動は、マナーや話し方を学ぶことができるので自分の成長につながりますし、いろんな学生との交流も広がります。先日、他大学を視察して感じたのは、自主性が足りないということ。もっとCA同士の親睦を図って、モチベーションの底上げをしていきたいと思っています。



【見学会参加者コメント】

小笠原 高宏さん(二戸市立金田一中学校1年)
CAに案内してもらったキャンパス・ツアーは、説明も上手でした。とても面白かったです。特に男性のCAの人には、親近感を覚えました。大学も広くてきれいなので、僕も県立大学に入りたいと思いました。



NEXT

【来年度キャンパス・アテンダント募集】

学生のみならず、あなたもCAとして活躍してみませんか? 応募資格は、やる気と情熱。自分の成長のチャンスとして、CAに挑戦してみましょう。募集の詳細は4月にお知らせします。



【CAの活動や県立大生の日常を紹介!】
キャンパス・アテンダントHP
<http://www.iwate-pu.ac.jp/campus-attendant/>



滝沢・宮古キャンパスで大学祭開催!

10月29日、30日の二日間、滝沢キャンパス・宮古キャンパスで大学祭が開催されました。今年の滝沢キャンパスの学祭テーマは「ai」。これには運営者や来場者の私という「i」、人との出会いの「会」、思いやりの「愛」という3つの意味が込められています。当日は天候にも恵まれ、2日間で1万人以上の来場者を動員。お昼時には模擬店に行列ができ、売り切れの札を掲げる店も少なくありませんでした。メインステージでは、アーティストライブに音速ラインが出演し、約1時間のライブで会場を興奮に包み込みました。その他にも来場者参加型の〇メイズや学生によるライブなどが開催され、来場者を楽しませました。

一方、宮古短大では、震災により宮古のまち・人の結びつきを強く感じた学生たちが、「共に復興への道を歩んで行きたい」という思いから、今年のテーマを「結〜むすび〜」に決定。例年行っているゼミの模擬店、サークル発表のほか、市内企業復興応援販売会や特別ゲストを呼んでの復興支援LIVE!!を開催しました。



10.29,30



MIYAKO 10.29,30



TOKYO 10.2



KYOTO 11.13



OSAKA 11.10

「いわてGINGA-NETプロジェクト」各地で活動報告、そしてNPO設立へ

IPU49号特集2でも取り上げた「いわてGINGA-NETプロジェクト」の取組について、東京、大阪、京都の各地のシンポジウム等で報告が行われました。10月2日の「東日本大震災 復興支援学生ボランティア車座シンポジウム」(東京)、11月10日の「公立大学学長会議特別シンポジウム」(大阪)、そして13日の「いわてGINGA-NETプロジェクト報告会」(京都)で、本学学生、他大学からの参加学生、教員などによる報告や意見交換、パネルディスカッションなどを開催。被災地での活動の様子はもちろんのこと、参加した学生同志のつながりの強さ・活動の全国的な広がりを、参加者に強く印象づけました。今後、社会福祉学部4年の八重樫綾子さんを代表としたNPO法人「いわてGINGA-NET」の設立に向けた準備が進められるなど、さらなる飛躍が期待されます。(GINGA-NETプロジェクトの詳細はHPにて<http://www.iwatenginga.net/>)



9.23

将来の大船渡市を考える「子どもふっこう会議」を開催

本学と大船渡市は9月23日、15年後の大船渡市の姿を考える「子どもふっこう会議」を開催。市内に住む中高生14人が参加しました。午前中、グループ毎に将来の街についての議論を行った後、ブロックを配置し立体的にまちの姿を表現。完成した案には、震災の被害を最小限に防ぐためのアイデアが取り入れられていました。



10.1

川前保育園と共同で被災地支援を実施

10月1日、本看護学部の教職員が中心となり、川前保育園と共同で田老町グリーンピア三陸宮古にて被災地支援活動を行いました。川前保育園の園児による「川前太鼓」の被災地支援用の新曲や、本学さんさ実行委員会による「さんさ踊り」の披露が行われ、さらに、現地の方々が元気になるように「おにぎり」と旬の食べ物「芋の子汁」の炊き出しを行いました。



10.3

盛岡もの識り検定試験 Web問題集 サービス開始

本学ソフトウェア情報学部情報システム構築学講座では、盛岡商工会議所と連携し、『学びで地域を活性化化するプロジェクト』を立ち上げ、エンターテインメント型学習コミュニティサイトを開設しています。その第1弾の「盛岡もの識り検定試験Web問題集*」が、10月3日サービスを開始。『盛岡もの識り検定-もりけん』の過去問をデータベース化し、ゲーム感覚で解答できるよう制作しました。* <http://sakumon.jp/>

IPU TOPICS

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。



10.9

どんぐり拾いと植樹が行われました

川前保育園児の皆さんによるどんぐり拾いと植樹が、10月9日に行われました。これは平成19年度から行われてきた活動で、「環境」を教育研究している本学が、環境面でも地域と共生していきたいという思い、そして園児の皆さんがともに大きく成長していけるようにとの願いが込められています。3歳児クラス約20名が参加し、どんぐり拾いの後、1年前の同行事で播種した苗木の植樹を行いました。



11.5,6

企画展でアロニア福田パン販売

11月5日・6日にクrosteras盛岡で、本学と上野法律ビジネス専門学校によるアロニア企画展が開催されました。アロニアとは、ブルーベリーに似ている盛岡特産の果物です。そのアロニアを使用した商品の販売や展示などが行われ、アロニアづくしのイベントとなりました。本学学生が考案したアロニア福田パンも販売。今回の企画展を通して、より多くの方にアロニアのことを知っていただくことができました。



11.9

IPU就活サブリ塾2013が行われました

学生が運営する就活セミナー、「IPU就活サブリ塾2013」が11月9日に行われました。このセミナーは、様々な業界から10社の企業を招き、人事担当者に学生が質問し、就活や仕事についての疑問や不安を解決するもの。学生スタッフは、当日だけでなく、企業との連絡調整など数ヶ月に渡る事前準備に携わりました。参加した136名の学生の真剣さと企画運営に携わった学生に対して、多くの企業から賞賛の声が寄せられました。



11.9

メディアセンター主催の選書ツアー実施

11月9日、盛岡市内の書店にて「選書ツアー」を実施しました。学生たちが読みたいと思う本や、役に立つと思う本を選ぶもので、一人当たりの予算は約15,000円。当日は本学の学生10名が、盛岡市内の大型書店にて約2時間、学生の視点から本を選びました。選んだ書籍は各自が選んだ本の推薦文を添えて、本学の図書館へ配架されます。



11.23

県立大学アリーナで球技大会開催

11月23日に、第2回球技大会が開催されました。大会には3チームが参加し、フットサル・バスケットボール・ドッジボール・コーフボールの4競技で熱戦を展開。ドッジボールで多くの勝ち点を上げたチーム「スッキリ!!」が優勝し、選手たちはお互いの健闘をたたえました。体育祭実行委員長の宮城董さんは「来年はより多くの参加者が楽しめるよう、大会の周知に力を入れたい」と意気込んでいます。

人事異動情報

10月1日付で、本学教員が次のように異動となりました。
[採用]
看護学部/小澤尚子(講師)
ソフトウェア情報学部/佐藤裕幸(教授)
共通教育センター/関根宏明(講師)
共通教育センター/井上一彦(助教)
[昇任]
ソフトウェア情報学部/岡本 東(准教授)
ソフトウェア情報学部/齋藤義仰(准教授)

IPU-MAG×出版委員会との連携がスタート!

本号から県立大学出版委員会の学生たちと協力し、一緒に広報誌制作を行っています。学生たちが関わるのは、トピックスコーナーや編集後記の原稿制作。学生ならではの視点で大学のイマをお伝えしていきますので、ご期待ください。

地域をつくる 希望の星たち

一人ひとりに寄り添いながら、
心に残る出産をお手伝いしたいんです。



卒業生

長崎由 (県立三戸病院産婦人科助産師)

1986年山田町生まれ。県立宮古高校を経て、岩手県立大学看護学部へ進学。看護師と助産師保健師の資格を取り、最初は県立中央病院の産科へ。2011年4月に県立三戸病院に異動し、産婦人科に勤務。お産だけでなく、様々な婦人科の病気に對する知識を得るために、勉強中の毎日とか。

地域貢献を使命の一つに掲げる
岩手県立大学。
学習や研究に励みながら
地域に役立つ力を磨く在学生と、
仕事を通じて
地域づくりに関わる卒業生、
それぞれの熱い思いを
紹介します。



在学生

佐藤陽香 (盛岡短期大学部生活科学科食物栄養学専攻2年)

1991年岩手県生まれ。県立岩泉高校卒業。特に好きな科目は調理実習。学んだ料理は一人暮らしをする自宅でも作るという。震災後は、陸前高田市広田半島の各世帯に飲料水ペットボトルを配布する活動にも参加するなど、被災地の支援活動に積極的に関わる。高齢者福祉施設の栄養士に内定。

保育園の栄養士など子どもの栄養に関わる仕事に就きたいと思い、食物栄養学専攻を志望。岩手で学び、岩手に貢献したいと考えていたので、地域に根ざした学校である県立大学盛岡短期大学部を選びました。少人数制で充実した学習ができることも、魅力でした。学んでいくうちに、関心は高齢者の食事に向くようになりました。きっかけは、高齢者福祉施設での学外実習です。高齢者は食が細くて必要な量を摂取できなかったり、病気のために献立が制限される人が多いという現実を知り、高齢者が食べることを楽しみながら栄養が摂れる食事を提供したいと思うようになりました。

6月から月には1回のペースで、野田村での炊き出し活動を行なっています。食物栄養学専攻の先生と学生有志による活動ですが、回を重ねるごとに「少しでもいいから人の役に立ちたい」という思いが強くなっています。住民の方から「いつもありがとう」「次も楽しみにしているよ」と言われるのが、何よりうれしいです。

春からは、雫石町の高齢者福祉施設で栄養士として働く予定です。現場での経験を積みながら、管理栄養士の資格取得を目指していきます。そして将来は資格を生かし、地域の人を栄養の面から支えていきたいと思っています。

12月に行われた野田村の炊き出し活動には、学生5名、教員4名が参加。200食のパンケーキやウダーを配り、多くの住民の皆さんに喜ばれた。

学んだ知識や資格を生かしながら
地域の人を支えていきたいです。



甲斐谷 望さん

甲斐谷望の アイーナ学ばろ!

「岩手県立大学アイーナキャンパス」は、
県民の皆さんが大学の授業や講座に
参加できるサテライトキャンパス。
専門的な知識はもちろん、
暮らしや健康に役立つ知識など、
内容も盛りだくさん。
本学卒業生でIBCアナウンサーの
甲斐谷望さんが、
講座の様子をリポートします。



今回の講座👉「管理栄養士国家試験受験準備講座」

この講座は、栄養士として働いている人を対象とした、社会人リカレント教育講座(国家試験受験準備講座)です。
講義と演習を中心とした授業が生まれ、受験準備を万全にサポート。管理栄養士になる夢を、しっかりバックアップしています。
(岩手県立大学盛岡短期大学部主催の講座などの情報はホームページ <http://www-mori.iwate-pu.ac.jp/>にて)

講座スケジュール

1月

【いわて高等教育コンソーシアム】

- いわての大学に行こう!岩手5大学、駅前講義[16日(月)~21日(土)]

【IPU情報システム塾】

- クラウドアプリケーション開発コース[21日(土)・28日(土)]

【いわて善隣塾】

- パソコンステップアップ講座[18日(水)]
- 初めての百人一首[25日(水)]

2月

【IPU情報システム塾】

- クラウドアプリケーション開発コース[4日(土)・11日(土)]

【いわて善隣塾】

- パソコンステップアップ講座[15日(水)]
- 初めての百人一首[22日(水)]

3月

【看護技術に関する相談・支援事業】

- アサーティブ・トレーニング[10日(土)]

【いわて善隣塾】

- パソコンステップアップ講座[21日(水)]
- 初めての百人一首[28日(水)]

※以上の講座の他に、【不妊・遺伝相談】【赤ちゃん相談室】【高齢者健康相談】【生活習慣病療養相談】を、定期的に開催しています。

※講座の詳細、お問い合わせについてはホームページでご確認ください。

岩手県立大学アイーナキャンパス

検索



スタート!
今回は7回講座のうちの5回目。取り組む科目は、「臨床栄養学」。少人数制なので、みっちり学ぶことができます。



講師は盛岡短期大学部の高泉佳苗先生。病院勤務の経験があり、自分の経験談を交えながら、わかりやすく説明してくれます。

管理栄養士を目指す仲間が
いっぱい!



今回のテキストは過去の試験問題。難しい問題には先生の解説が入ります。



講座中は、誰もが真剣そのもの。先生の話にも熱心に耳を傾けます。

受講者はみんな真剣。集中して講義が受けられます。



演習が中心なので受験に役立ちますね。



受講者の皆さんは自分のレベルアップを目指して、講座を受講する人がほとんど。管理栄養士の夢をつかむために、真剣に講義を受けていました。



今年度受験する人だけでなく、将来に備えて勉強のために受講する人もいます。

【岩手県立大学アイーナキャンパス】いわて県民情報交流センター(アイーナ)7階 〒020-0045 盛岡市盛岡駅西通1-7-1

編集後記

前号の特集、そして今号のトビックスに掲載された「LIVING&NET」プロジェクト。今回、シンポジウムで学生の皆さんの発表を生で聞いてきました。一人ひとりがこんなにも強い思いを持ち、それが遠方の大学の学生ともつながり、共有されている...とても素晴らしいことですし、何よりその思いが本学を中心に広がっているというところに、嬉しさというか誇らしさというか、とにかく胸が熱くなるような気持ちを感じました。(企画室 T.S.)

● 本学では災害ボランティアの一環として、ボランティアバスの運行を行っています。11月には4回目のバスが運行され、参加者は交流支援を目的に仮設住宅の皆さんと親睦を深めました。また、学内では、12月に入ると寒さが一層厳しくなり、水道管の凍結が心配されるため、一人暮らしの学生を対象とした水抜き作業の説明会が行われました。他にも、夢灯りやクリスマス会といった季節感あふれるイベントも開催されるなど、様々な活動が行われています。(出版委員会 N・W)

● 出版委員会は今号から本誌制作に協力させていただくことになりました。本誌では主な仕事として情報収集、取材や原稿制作などを行っています。まだ不慣れな点も多く、アドバイスをいただきながら取り組みました。今回の活動で学んだことを自身のスキルアップへとつなげていきたいと思えます。また、出版委員会の方では学内新聞の発行も行っていますので、興味のある方はぜひ手に取ってご覧いただけると幸いです。(出版委員会 A・Y)



岩手県立大学 企画室 協力:岩手県立大学出版委員会
Iwate Prefectural University

〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字菓子152-52
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001
【URL】<http://www.iwate-pu.ac.jp/>
【e-mail】management@ml.iwate-pu.ac.jp 発行:2011年12月31日